

カタルーニャ・クロッシング

カタルーニャと日本。人や企業、そして芸術、生活がクロスする現場を探ります。

第14回 ルーカス・モンデーロ氏 トヨタ自動車女子バスケットボールチーム“アンテロプス” ヘッドコーチ

「カタルーニャそのものの私と、 日本そのものの選手たちだから強くなれる。」



AMICS 今日は今シーズンのプレーオフを控えた重要なタイミングにお時間をいただきありがとうございます。

ルーカス どういたしまして。バルセロナ出身の私としてはみなさんのお役に立てることが光栄です。インタビューも多く経験してきていますのでなんでも聞いてください。

AMICS 最初にバルセロナでの幼少時代、バスケットボールとの出会いをお聞かせください。

ルーカス 私はバルセロナ生まれです。グランビア通りとロカフォット通りの角にあった産院で産まれました。最近では尋ねていないのですが、現在は定年退職した人たちの施設になっているようです。幼少時代からはオスピタレットに住んでいました。バルセロナ郊外の町で、東京に対して川崎のようなところといったらいでしょう。

バスケットを始めたのは10歳、小学生からです。その頃まだ体育館はまだなく学校の校庭で始めたんです。おまけにバスケットのボールが充分になくて、テニスボールで練習したりもしていたんですよ。それでもその小さいボールはバスケットの能力を高めるのに役に立ちました。雨が降ると、相手チームも含め12名+12名の総出で校庭の水を乾かしたんです。13歳になってクラブチーム、地元オスピタレットクラブに入ります。プレーするのも楽しかったのですが、同時に下のクラスの

指導役をすることになりましたので、それがコーチの原点になったわけですね。バスケットボールも最初はゴム製でした。体育館で皮のボールを使った最初の試合は12歳のとき。よく覚えています。ジュシス・デ・グラシアが相手チームでしたが、負けました。スコアも覚えています。60対25です。

AMICS バルセロナの少年たちには、人気ではサッカーが一番じゃないかと思うんですが、バスケットはどうだったのでしょうか。サッカーもやられたんですよね。

ルーカス サッカーは子供の頃からですね。その次がバスケットボールです。家に帰ってから地域の悪ガキたちで集まったら始まるのがサッカーです。もちろんインターネットもゲームも携帯もなかった時代ですから、地面で遊ぶのはサッカーですね。バスケットボールは1984年のロス五輪でスペイン代表がマイケル・ジョーダンのいるアメリカチームと対戦し、銀メダルを取ると爆発的に人気が出ました。どちらもスペイン代表チームがW杯で優勝していますから。

AMICS スペインでは、あるいはカタルーニャでは子供が成長していく上で、さまざまなスポーツをやらせてみるのでしょうか。日本では良くも悪くも比較的小さいうちにスポーツが決められてしまうような気がします。

ルーカス 小さい頃から一つのスポーツに専念させるのがスペインのやり方でした。この20年くらいではもう少し後になって競技を決めるという方向に変わってきています。私の考えではあまり早く決めない方がいいと思います。学校では日本のように体育の授業や部活動がありません。外のクラブチームに入るので一度サッカーと決められると、バスケットボールやハンドボールをやってみる機会はありませんでしたし、そのサッカーがうまくいかなかったとき他の競技に移れるチャンスはもうなくなっているのです。他のスポーツがあっただけの子供達もいたはずなのに。これは全てサッカーのビジネスモデルだったからです。カタルーニャのバスケットボールは新しいやり方を取り入れてきました。NBAプレーヤーとして活躍するリッキー・ルビオ、ファン・カル

ロス・ナバロ、マルクとパウのガゾル兄弟。チャンピオンリングを持っている彼らは皆、カタルーニャ人であり、カタルーニャのバスケットボール界が育てた一流のバスケットボールプレーヤーです。

AMICS さて、ルーカスさんは2006年から女子バスケットボールの指導者としてキャリアを積み、スペインリーグのCBアベニダ、中国、ロシア、さらには女子スペイン代表では2014年世界選手権(銀)、2016年リオ・オリンピック(銀)、2018年W杯(銅)とすばらしい成果を達成されています。2019年トヨタ自動車の要請に応じていただき日本にきていただけて嬉しいです。経緯を伺えますか。

ルーカス それまでも日本には何度も試合できていましたが、2013年から中国の山西フレイムヘッドで中国リーグを3連覇したあと、ロシアのディナモ・クルスク(A注:彼はこのチームをロシアカップ、ユーロリーグ、欧州スーパーカップの3冠に導いている)を引き受ける前年、現在の妻であるメルセデスと出会いました。彼女は日系でもう25年前から日本に住んでいましたので、そこから彼女に会いに日本に来るようになり、日本の生活の質の高さを知りました。それもきっかけの一つですが、トヨタ(トヨタ自動車アンテロプス)でバスケットボールのレベルの高さを認識させられたのです。日本の女子バスケットボールはもっと強くなる可能性を感じました。そして確信したんです。もっと上に行けるよう私が手助けができること。



AMICS 専門誌のインタビューで「私の文化と選手たちの文化を掛け合わせたらいいチームになれる」とおっしゃっていますね。

ルーカス その国の文化、そこで育ってきた選手の文化は変えることができません。でも彼女たちには持っていることに加えて、まだやっていないことを取り入れる余地があるんです。スペインと日本、それぞれが持っている強みをフュージョンさせる。日本の良さを変えずにスペインの良さを融合させる。彼女たちの良さはスペインに取り入れたらいいし、スペインの良さは日本に持ってくれば彼女たちはより強くなります。

AMICS 日本選手とスペイン選手、具体的にはどのあたりがポイントになると思われていますか。

ルーカス トヨタの選手は指示されたことをきっちり実行していく能力が高いです。でも状況を理解し判断する能力(A注:インスピレーションみたいなもの)にはまだまだ伸ばせる余地があります。私は前向きに判断し、ミスをしたならば許されるという環境を作っていきます。ゲームの局面は常に変化します。いつもと違う判断を選ぶ事を恐れなことが大事です。口でいうのは簡単ですが、実際にそれを行動に移すのは難しいことです。選手は瞬時に次のプレーを判断しなければなりません。その判断ができるように、選手が判断に恐れをもたないようにするのがコーチの役割です。

カタルーニャの素晴らしい選手を育成したクラブチームでは、ミスを恐れないこと、自分が状況を見て判断をしプレーすることを小さい時から教えています。ゲームには状況を理解する、理解力が必要です。ディフェンス、オフェンス、それぞれにチームの決まりごとがあります。それでもゲームの状況は常に変わる。大事なものは「今このゲームの局面では何が起きているのか」を知り、理解することです。決まったやり方に沿って対応するだけではなく、状況に合わせてアクションをできるように。私を指導してくれたカタルーニャの人たちのやり方を、さらに私が昇華させた方法があるんです。「チャレンジさせる、そして修正する」というのがそのやり方です。状況を理解し、判断した結果のプレーを罰することはありません。サポートするのが私の仕事です。それほどいま何が起きているのかを知ることが大切です。

AMICS 状況理解力と判断力を磨かせるのが、カタルーニャの選手育成の特徴、つまり文化であるということですね。

ルーカス そうです。選手たちが受けている指導(文化)にはそれぞれのアドバンテージがあります。カタルーニャの選手は小さい頃から直感に従っていく育てられ方をされています。直感力の前提は状況理解です。これについては、カタルーニャのプレーヤーたちの方がアドバンテージがある、得意だと思います。日本のプレーヤー、チームは指示を徹底して実行していくところ、さらには高い強度でプレーできること、特にメーク力、つまりシュート力です。こうした集中力は日本の選手たちが上です。どちらのチーム、どちらの文化も高いレベルを備えているんです。

AMICS ルーカスさんにとってカタルーニャとはなんでしょう?トヨタ自動車アンテロプスというチームを指導する際に、自分にとってのカタルーニャ、自分の中のカタルーニャ人らしさを実感するところがありますか?

ルーカス 私はバルセロナで生まれたカタルーニャ人です。私の文化、心がそうです。私はそれをバスケットボールという形でトヨタ自動車アンテロプスに伝えている。選手たちやトヨタのチームは、経験していないカタルーニャの一片に触れることになる。逆に言えば選手たちは日本そのものなのです。彼女たちはそれを私に伝えてくる。私は日本の一片に触れることになる。私はカタルーニャ語と同じくらい日本語も喋れるようになりたい。近づきたい、そして取り込みたい。こういう私自身がカタルーニャそのものなんです。

<AMICSの眼>

インタビューの中盤からスペインというワードはカタルーニャとなった。編集長によると会話もどんどんカタルーニャ語にシフトしていくそう。トヨタ自動車アンテロプスは取材後の週末セミアイナルを勝ち上がり、翌週末の富士通とのファイナルに挑んだ。NHKBSの放映をご覧になった方も多いと思うが、特に第1戦のゲーム展開には彼の言葉が実によく理解できるポイントがいくつもあった。そして「ゲーム中の私はスゴイですよ」と語っていたヘッドコーチとしての存在感でも相手を圧倒していました。リーグチャンピオンシップ2連覇おめでとうございます!

(取材/文 原正彦)

ルーカス・モンデーロ・ガルシア Lucas Mondelo García

スペイン国内でプレーヤーとして活躍した後、2006年から指導者に。指導したチームをスペインリーグ、中国リーグ、ロシアリーグでそれぞれトップに躍進させる。さらには女子スペイン代表監督としても世界選手権、オリンピックの銀、ワールドカップの銅とメダル獲得。2019年トヨタ自動車アンテロプスのヘッドコーチに就任。2年目にリーグ初優勝に導き、2021-2022シーズンでもリーグ2連覇を達成したばかり。バルセロナ出身、54歳。